

文化財を次代のこども達へ

～身近にある文化財を知り、学び、体験する～

喜田 祥子

愛知登文会では、県内の国登録有形文化財の建物でこどもを対象にした「文化財こどもプロジェクト」を実施している。小中学生のころから文化財に親しむことで、その存在を誇りに思い、将来の文化財に対する理解者・協力者を育てていこうというものである。こども達にどのように文化財の魅力や価値を伝えていくか、これまでに実施してきた取り組みについて紹介する。



伝統文化を体験するこども文化財体験

「こども文化財体験事業」は、小中学生を対象に、身近にある文化財建造物に親しむことで地域への愛着を高めてもらい、あわせてこれをきっかけに文化財の保存・活用やまちづくりの将来の協力者に育ってもらおうという目的で企画し、これまでに四ヶ所の国登録文化財建造物で五つの企画を実施している。地域に隔たりなく県内各地で実施し、地元地域の伝統文化に触れる機会にもなるよう心がけている。内容は次の通りである。

*名古屋陶磁器会館＋絵付・卓育体験

名古屋市東区にある名古屋陶磁器会館は、かつては陶磁器絵付業の中心拠点であった建物である。二〇一一年度に小学生二七名が絵付体験を、二〇一二年度は対象者を変えて小学校低学年のカブスカウト九名が食器を用いながら食について学ぶ卓育を体験した。建物については、宝物探しのようには、床や壁のタイルの写真を見ながら実際に建物のどこに使用されているか館内を探して歩くなど、こどもが建物に興味を示しやすい工夫をした。

*旧大野銀行（鳳来館）＋書道体験

新城市にある「鳳来館」は、旧大野銀行の建物を喫茶＆展示スペースに用途転換し活用されている。地元の小学生十九名が大野宿のまちと建物の歴史を学んだ。文化体験としては、所有者が書道家であ



名古屋陶磁器会館で、建物の歴史や現在の使われ方についての解説を聞くこども達。

ることから書道体験を実施し、思い思いの作品を仕上げた。完成した作品は二階の展示スペースでしばらくの期間展示し、大勢の方々に見ていただくことができた。

*柴田家住宅＋お抹茶・祭囃子体験

清須市にある「柴田家住宅」は、美濃路に沿って建つ商家で、尾張町家の特徴を表す建物である。名古屋市内のボーイスカウト二六名が参加し、改修工事を担当した建築士から専門的な話を伺い、所有者からは建物の案内を受けた。また、この地域には五台の山車があり西枇杷島祭りも有名であるが、二階の座敷では地元の祭囃子による出前演奏を、一階の土間ではかつて祭の休憩の合間に飲まれていた抹茶をいただくなど、独自の空間で地元文化を体験した。

*実相寺＋坐禅・鶴城焼体験

西尾市にある「実相寺」は、西条城主・吉良氏の菩提寺として文永八年（一二七一）に建立したと伝えられ、長い歴史を有している。ご住職から寺の歴史と建物の解説をいただき、坐禅を体験した。また、西尾市は抹茶が生産日本一であるが、今回はその器づくりを地元の鶴城焼の先生を招いて体験した。実相寺近くの小学校に通う十八名の児童が参加したが、建物内部に入るのは今回が初めてのこどもも多く、「建物でできた時代がよくわかった」といった感想も聞かれた。



実相寺（西尾市）で坐禅体験をする地元の小学生。足の組み方や呼吸の仕方を学んだ。

こども文化財ガイド in 名古屋テレビ塔



テレビ塔の歴史について学ぶこども達。

二〇一二年度から新しい取り組みとして始めたのが、名古屋テレビ塔で実施した「こども文化財ガイド事業」である。これは、こども達に身近にある地域の文化財建造物について学ぶ機会を提供し、その活動の成果として、こども自身が文化財建造物をガイドすることで、地域文化への関心を高めてもらうというものである。こどもが大人を対象にガイドをすることから、地域の人々にも注目してもらいやすい事業であり、また、大人にも文化財に関心をもってもらえる機会になればという期待も込められている。

参加したこどもは、テレビ塔にほど近い小学校の五・六年生で、十三名が参加した。こども達は三回の講座でテレビ塔の歴史やこれまでにテレビ塔で起きた出来事について学び、四回目に大人を対象にテレビ塔を案内するガイドを行った。

*テレビ塔について学ぶ

まず初日の講座では、テレビ塔をよく知るため、テレビ塔職員の案内で、普段入ることのできない昔のテレビ局の部屋や地下室などを見学した。

二回目の講座では、今回のために作成した教材を用い、テレビ塔がいつ建てられたのか、テレビ塔ができた当時のまじの様子や現在の活用などについて学んだ。三回目の講座では、四回目に言うガイドに向けて、それまでに学んだうちの



昔の写真を見ながらテレビ塔ができた当時の出来事などについて解説するこども達。

内容をどのように伝えるか、こども達自身で考えて文章にとりまとめた。

*テレビ塔をガイドする
最後の四回目の講座では、実際に大人を対象にしてテレビ塔をガイドした。

参加した大人からは「初めて知った」という声が多く聞かれ、ガイドを終えたこども達からは、「説明するのは緊張したけど楽しかった！」「案内したことで知らない人とも仲良くなれてよかった」「次のガイドはいつですか？またやりたい！」といった感想が聞かれた。緊張しながらも楽しみなが案内でき、充実感も得られたようだった。また、自分のこどもがガイドをする姿を見ていた保護者からは、「いつのまにか成長していたんだね」「下の子にもぜひ同じ経験をさせたい」といった感想が聞かれ、今回の企画の継続を希望する声も多かった。

こどもを対象にした文化財事業について

こうした取り組みは、単に一度きりのイベントで終わらせるのではなく、より多くのこども達が経験できるよう継続して実施されることが望まれる。できれば、何十年と継続され、その取り組みがまちの恒例行事となり、文化財や自分が住むまちやまちづくりに関心を持つこどもが一人でも多く育つような仕組みができていくとよい。そのようなことを念頭におきながら、今後も支援していきたい。